

日本初開催

## IAAF 世界リレー2019 横浜大会の開催が決定しました!

リレー競走だけを行う国際競技大会「世界リレー大会」の第4回大会が、**2019年5月に日本で初めて横浜で開催されることが決定しました。**過去3回はバハマで開催されており、**日本では初開催となります。**

本大会は、2019年9月～10月に開催予定のドーハ世界選手権への出場権もかかった大会であり、**ドーハ世界選手権の上位8カ国は、東京2020オリンピックの出場権を獲得**することができます。

東京2020オリンピックで金メダルを目指す日本代表をはじめ、**世界のトップアスリートが横浜に集結し、熱い戦いを繰り広げます。**

### 1 世界リレーについて

国際陸上競技連盟（以下、IAAF という）が主催するリレー競走だけを行う国際競技会であり、陸上競技の普及とリレー種目の魅力を世界にアピールする事を目的に2014年に新設されました。IAAFが主催大会を新規に創設するのは、1999年の世界ユース陸上競技選手権大会以来15年振りであり、**競技会の価値はIAAF主催競技会の中でもトップクラスに位置付けられています。**

### 2 大会開催概要

- (1) 大会名称 : あいえーえーえふ I A A F にーせろいちきゅう 世界リレー2019横浜大会
- (2) 主 催 : 国際陸上競技連盟 (IAAF)
- (3) 主 管 : 公益財団法人日本陸上競技連盟 (JAAF)
- (4) 共同主管 : 横浜市
- (5) 運営協力 : 一般財団法人神奈川陸上競技協会
- (6) 開 催 日 : 2019年5月11日 (土)、12日 (日)
- (7) 会 場 : 横浜国際総合競技場 (日産スタジアム)
- (8) 実施種目 (予定) : 4×100m リレー (男、女)、4×200m リレー (男、女)、  
4×400m リレー (男、女、混合)、4×800m リレー (男、女)

### 3 今後について

今後、大会の開催に向けて、日本陸上競技連盟と連携し、市民招待や大会の広報・PRなどの取組を行っていきます。

お問合せ先
市民局スポーツ振興課長 守屋 喜代司 Tel 045-671-3237

※本件については、公益財団法人日本陸上競技連盟からも同時発表をしています。

《参考》過去大会の実績

(1) エントリー実績 ※いずれもバハマの首都、ナッソーで開催

回数	期間	種目数	参加国数	参加者数
第1回	2014年5月24日、25日	10種目	43か国	576名
第2回	2015年5月2日、3日	10種目	43か国	669名
第3回	2017年4月22日、23日	9種目	35か国	509名

(2) 日本チーム実績

第1回大会（2014年）

種目	出場選手	結果
男子4×100mR	大瀬戸一馬 - 高瀬慧 - 桐生祥秀 - 飯塚翔太	38.40（5位） ★2015世界選手権出場権獲得
男子4×200mR	小林雄一 - 江里口匡史 - 高平慎士 - 藤光謙司	1:23.87（予選敗退）
男子4×400mR	油井快晴 - 金丸祐三 - 石塚祐輔 - 渡邊和也	3:03.24（B決勝2位）
女子4×100mR	北風沙織 - 土井杏南 - 渡辺真弓 - 市川華菜	44.66（予選敗退）

第2回大会（2015年）

種目	出場選手	結果
男子4×100mR	大瀬戸一馬 - 藤光謙司 - 桐生祥秀 - 谷口耕太郎	38.20（3位） ★2016リオオリンピック出場権獲得
男子4×400mR	小林直己 - 佐藤拳太郎 - ウルシジリアン - 北川貴理	3:06.38（予選敗退）
女子4×100mR	渡辺真弓 - 土井杏南 - 福島千里 - 市川華菜	失格
女子4×400mR	青山聖佳 - 千葉麻美 - 青木沙弥佳 - 吉良愛美	3:34.65（B決勝2位）

第3回大会（2017年）

種目	出場選手	結果
男子4×100mR	増田拓巳 - 齊藤勇真 - 山下潤 - 藤原武	40.31（B決勝7位）
男子4×400mR	ウルシジリアン - 田村朋也 - 小林直己 - 堀井浩介	途中棄権